

令和5年7月10日(月)

令和5年度第1回「横浜市地域公共交通会議」

次 第

議題

- ・青葉区東部地区（新石川地区、美しが丘地区、あざみ野地区）における
地域交通の実証実験について

報告

- ・旭中央地区「四季めぐり号」の運行計画の変更について
- ・小雀地区乗合バス「こすずめ号」の取組状況について
- ・タクシーを活用した相乗りの取組について
- ・泉区新橋地区「アッテ号」の実証運行の終了について

◆ 配布資料

- ・委員名簿
- ・座席表
- ・議題資料

令和5年度 第1回「横浜市地域公共交通会議」委員名簿

令和5年7月 現在

職名	氏名
横浜市町内会連合会委員(青葉区連合自治会長会 会長)	関根 宏一
公募市民	小田部 明人
公募市民	宮本 幸司
学識経験者 東京大学大学院 特任教授	中村 文彦
一般乗合旅客自動車運送事業者 (一般社団法人神奈川県バス協会 乗合部会長)	齋藤 謙司
一般乗用旅客自動車運送事業者 (神奈川県タクシー協会横浜支部 常任理事)	藤井 嘉一郎
一般社団法人神奈川県バス協会 専務理事	関上 義明
神奈川県タクシー協会横浜支部 事務局長	稲葉 弘行
神奈川県交通運輸産業労働組合協議会 副議長	高橋 功
神奈川県交通運輸産業労働組合協議会 事務局長	小笠原 征夫
国土交通省関東運輸局自動車交通部 旅客第一課長	神宮 秀樹
国土交通省関東運輸局神奈川運輸支局 首席運輸企画専門官	平田 伸一
神奈川県警察本部交通部 交通規制課長	松本 淳平
神奈川県県土整備局都市部 交通企画課長	神永 裕一
(座長) 横浜市都市整備局 都市交通部長	松井 恵太
横浜市道路局 計画調整部長	谷津 毅

令和5年度第1回「横浜市地域公共交通会議」	
日 時	令和5年7月10日(月) 13時15分から15時00分まで
場 所	横浜州市庁舎1階スペースAB会議室
開催形態	公開(傍聴：7名)
議 題	・青葉区東部地区（新石川地区、美しが丘地区、あざみ野地区）における地域交通の実証実験について
報 告	・旭中央地区「四季めぐり号」の運行計画の変更について ・小雀地区乗合バス「こすずめ号」の取組状況について ・タクシーを活用した相乗りの取組について ・泉区新橋地区「アッテ号」の実証運行の終了について
議 事	(※本議事概要内では敬称略) 【議題】 青葉区東部地区（新石川地区、美しが丘地区、あざみ野地区）における地域交通の実証実験について ■公募市民 ご意見 ①本事業は地域交通サポート事業として取り組んでいるのか。 本事業は横浜市独自で検討している新たな施策なのか。 ②過去に地域交通サポート事業でうまくいかなかった地域においても、今後このやり方で進めていくことはあるのか。 →◆事務局 回答 ①地域交通サポート事業とは違う観点で進めていく事業である。 横浜市が地域の課題を特徴ごとに整理し、生活サービス連携のポテンシャルがあるかを検討したうえで、地域の意見も踏まえて進めている事業である。 ②実証実験の段階であり、地域課題及び生活サービス連携のポテンシャルがあるか判断して進めている。本格運行を考えたとき、どのような形で適用できるかも検討していく。 ■学識経験者 東京大学大学院 特任教授 ご意見 ①資料の前半に「外出促進効果」の記載があるが、後半は「公共交通の利用促進」とニュアンスが異なっている。外出促進については、移動の総量を上げることを指し、公共交通の利用推進は、単純に公共交通の利用者数を増加させることであり、異なる内容である。また、自動車からの転換については、どのように検証するのか、地域住民のどのような自動車の利用を考えているのか、またコロナを経て、外出から遠ざかっている人たちに、外出を促す方法はなにかあるのか、そこを丁寧に記載いただきたい。地域に向けた施策として、外出促進のことに比重を置いて取り組んでほしい。 ②代表交通分担率のデータは、パーソントリップ調査のデータを使い、高齢者の移動に

について考えるのであれば、まずどれくらいの外出率があり、その中で外出した人がどのような移動手段を利用しているかを考える必要がある。また、鉄道までどのように移動しているのか資料では確認することはできない。目的別トリップ数のデータも合わせて確認することで、外出率が全体的に下がっていることや、年代で変化が出ていることなどが見えてくるはずである。

- ③26 ページで「80 歳以上の高齢者では、バス停カバー率が高いため自動車からバスへの転換が促されていると想定されます」と記載あるが、根拠はなにか。このデータのみなら記載しないほうがよい。

→◆事務局 回答

- ③グラフから読み取り記載したが、適切な表現に修正する。

■一般社団法人神奈川県バス協会 乗合部会長 ご意見

- ①昨年度の実証実験では、既存バス路線の利用者は減少したのか。
②今回の実証実験では、3つのエリアを各1台で運行とあるが交通事業者の役割分担は決まっているのか。

→◆事業者 回答

- ①規模感が小さく、期間が短かったため、特に問題なかった。
②あざみ野地区、新石川地区は前半、後半とも神奈川都市交通、美しが丘地区は前半が東急バス、後半は神奈川都市交通を予定している。

■公募市民 ご意見

- ①採算が合うことが重要だと考えるが、交通チケットを多く配布しており、配布数を増やすと交通事業者の負担が大きくなると思うが、どのように考えているのか。
②交通チケットは周知目的だと思うが、本格運行時は配布しないのか。

→◆事務局 回答

- ①実証実験においては、交通チケットを含め、運行費用は横浜市が負担している。将来的に利用率を上げることが重要であるが、まだ取組年数が浅いため、様々な広報手段を用いて周知することで、認知度をあげ、利用率をあげていきたい。
②将来的な本格運行は、民間事業者向けに公募する予定であり、交通チケットは連携施設側の駐車場の割引などに相当するものとして連携施設側で用意してもらいたいと考えているが、実証実験の中では市が費用を負担している。

■神奈川県タクシー協会横浜支部 常任理事 ご意見

- ①本実証実験では、東急バスが入り定員11名の車両を用いる予定になっているが、その目的はなにか。

→◆事務局 回答

- ①21条申請をするうえで、東急バスは一般貸切旅客運送事業者として申請することになり、定員11人以上が条件となるためである。

■東京大学大学院 特任教授 ご意見

- ①交通チケットの意味合いについて、自家用車で外出した際の駐車場代の代わりとして交通チケットを配布するという考え方はわかる。しかしバスから転換してくる可能性もある。実験なので様子をよく見て判断していくことだと思う。
- ②本実証実験が終わったあとのことを、どのように地域に説明しているのか。

→◆事務局 回答

- ②目的については、地域の代表の方には説明している。昨年度に実証したエリアについては、関心の高い方に対して勉強会も実施しており、その中で、持続していくにはどのようなものが必要で、どのように進めていくのかも含めて議論を進めている。今後とも検討していく予定である。

■横浜市都市整備局 都市交通部長 ご意見

- ①将来的には交通チケットを配るのか、協賛金を募るのか等、地域に説明した時に、どのような反応があったのか。
- ②具体的な事業費まで話にあがっているのか。

→◆事務局 回答

- ①勉強会に参加されている方は、単独で交通事業者が回すのは難しいと理解している。また、地域としても協力して進めていく必要があるという意見がでている。
- ②そこまではまだ進んでいない。

【報告】

- ・旭中央地区「四季めぐり号」の運行計画の変更について
意見なし

・小雀地区乗合バス「こすずめ号」の取組状況について

■公募市民 ご意見

- ①横浜医療センターへ延伸した目的はなにか。
- ②横浜医療センターはどのような人が利用しているのか。

→◆事務局 回答

- ①目標人数に達していないことから、利用促進策の一環として、小雀地区内から横浜市医療センターに向かう需要を拾うために延伸した。
- ②現在、バス停ごとで乗降人数は把握していない。今後、事業者と協力して乗降人数を把握し、延伸の効果を検証する予定である。

■東京大学大学院 特任教授 ご意見

- ①本事業を継続していくうえで、利用人数は大切だと思うが、地域の外出を増やして利用者を増加させるか、自動車利用をしている人の転換で利用者を増加させるのか、そ

れを実証するためにどのようなデータをとるのが大切である。また、小雀地区の住民が毎日利用する必要はなく、頻度の少ない利用者に利用を促し、人数を増やしていけば目標人数達成できるはずだが、どのような方向性で今後進めていくのか、事業者にはデータを取らせるだけでなく、地域の方々に協力してもらうためにはどうすればよいのか、といったことまで検討して進めていくことが重要である。

→◆事務局 回答

- ①新規利用者の確保に向けた取組を行っていききたい。いただいた意見を参考にして検討を進めていく。

・タクシーを活用した相乗りの取組について

■東京大学大学院 特任教授 ご意見

- ①他の都市で相乗りタクシーの取組はあるか。あった場合、なにか参考にしたか。
- ②5 ページの図では、相乗りタクシーによって総量が増えると資料に記載あったが、新規はどこから増加する想定なのか。また、既存タクシー利用者が相乗りタクシーに転換しないと想定しているが、それは可能なのか。もし想定がある場合、隠れている需要を動かすことが見えるよう資料に記載することが好ましい。
- ③8 ページの図では、「相乗りに関心がある」という人と「既に移動に困っている」という人は別の人なのか。関心があると答えて、体験乗車会に参加していない人へなぜ参加しなかったのかヒアリング調査を行ったのか。体験乗車会に参加し実証実験に参加していない人へヒアリング調査を行ったのか。9 ページ以降の根拠としてどのくらい調査を行ったのか。行っていない場合、一個一個調査をしていかないと意味がないと思う。

→◆事務局 回答

- ①関東運輸局管内では、事例はないと聞いている。
- ②普段タクシーを利用しないが外出に困っている方に相乗りタクシーを利用してもらうことで、タクシーを身近なものとして普段から利用してもらうことを期待している。
- ③「相乗りに関心がある」と答えた方が必ずしも「既に移動に困っている」と答えているわけではない。両方あてはまる方も片方だけあてはまる方もいる。関心があると答えた方と体験乗車会に参加した方の相関性はわからない（会議後確認：体験乗車会も同様で、「相乗りに関心がある」と回答し、実際に体験乗車会で乗車している方もいれば、関心があると回答したが体験乗車会で乗車していない方もおり、また、関心がないと回答しているが体験乗車会で乗車している方もいる。）

■横浜市都市整備局 都市交通部長 ご意見

- ①事後アンケートは行っていないのか。行っていない場合、今年度進めていくうえで昨年度実験についても地域住民から意見を聞けるように工夫して進めてほしい。

→◆事務局 回答

- ①行っていない。今年度の実証実験で工夫して進めていく。

■一般社団法人神奈川県バス協会 乗合部会長 ご意見

①追加予定地区「川島町西町内会」は既存バス停と被ることはないのか。

→◆事務局 回答

①被ってはいない。

・泉区新橋地区「アッテ号」の実証運行の終了について

意見なし

・その他

■公募市民 ご意見

①地域交通の体制を今年度から都市整備局に一本化したと聞き、評価しているが、都市整備局に一本化した狙いを具体的に教えてほしい。

→◆事務局 回答

①局を跨って仕事を進めていくと連動した取組が難しかった。また、町づくりや生活サービスと連携した取組で進めていくため、都市整備局に一本化した。